

令和 3 (2021) 年度科研費等の審査に係る総括

令和 3 (2021) 年度科研費の日本学術振興会審査担当分の応募受付から審査終了までの総括は以下のとおりである。

本文中の説明部分では以下の略語を用いる。

日本学術振興会：「JSPS」

文部科学省：「文科省」

科学研究費助成事業：「科研費」

新型コロナウイルス感染症：「コロナ」

1. 全体のまとめ

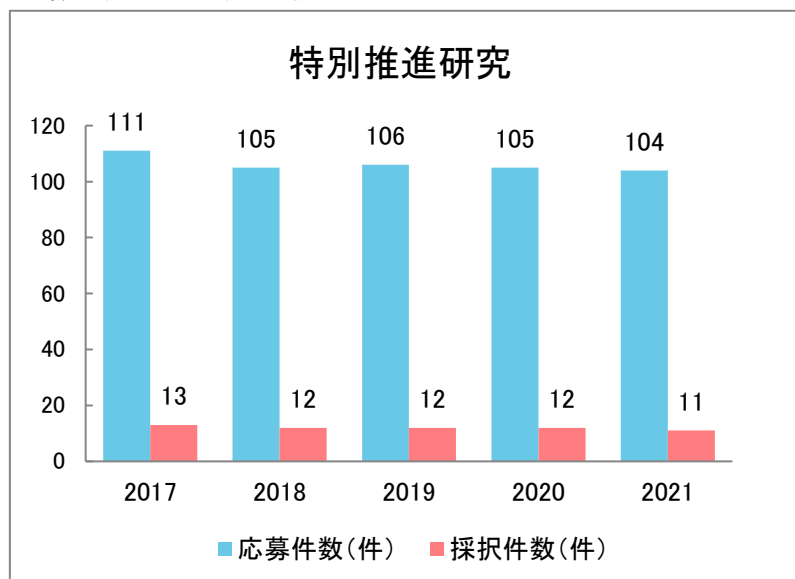
(1) 研究種目ごとの審査結果（新規応募・採択状況）

①特別推進研究

応募件数は 104 件（前年度 105 件）、採択件数は 11 件（同 12 件）であった。特別推進研究の審査について、コロナの感染拡大等の影響により、昨年に引き続き「Web 会議」形式で実施した。

具体的な審査方法等の詳細は、後述の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載した。

応募件数・採択件数の推移



②基盤研究

「基盤研究」全体での新規応募件数は 59,757 件（前年度 60,350 件）、採択件数は 16,921 件（同 16,859 件）であり、前年度より応募件数は減少し採択件数は増加した。

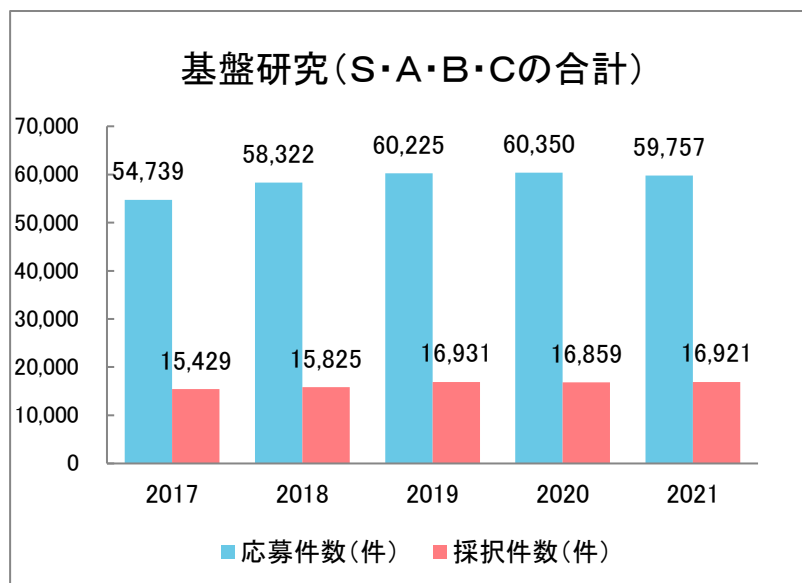
基盤研究全体としては平成 29(2017)年度から令和 3(2021)年度までに応募件数が 5,018 件増加しているが、基盤研究（S・A・B）の応募件数には大きな変化はなく、増加分はほぼ基盤研究（C）の増加分（5,010 件）である。

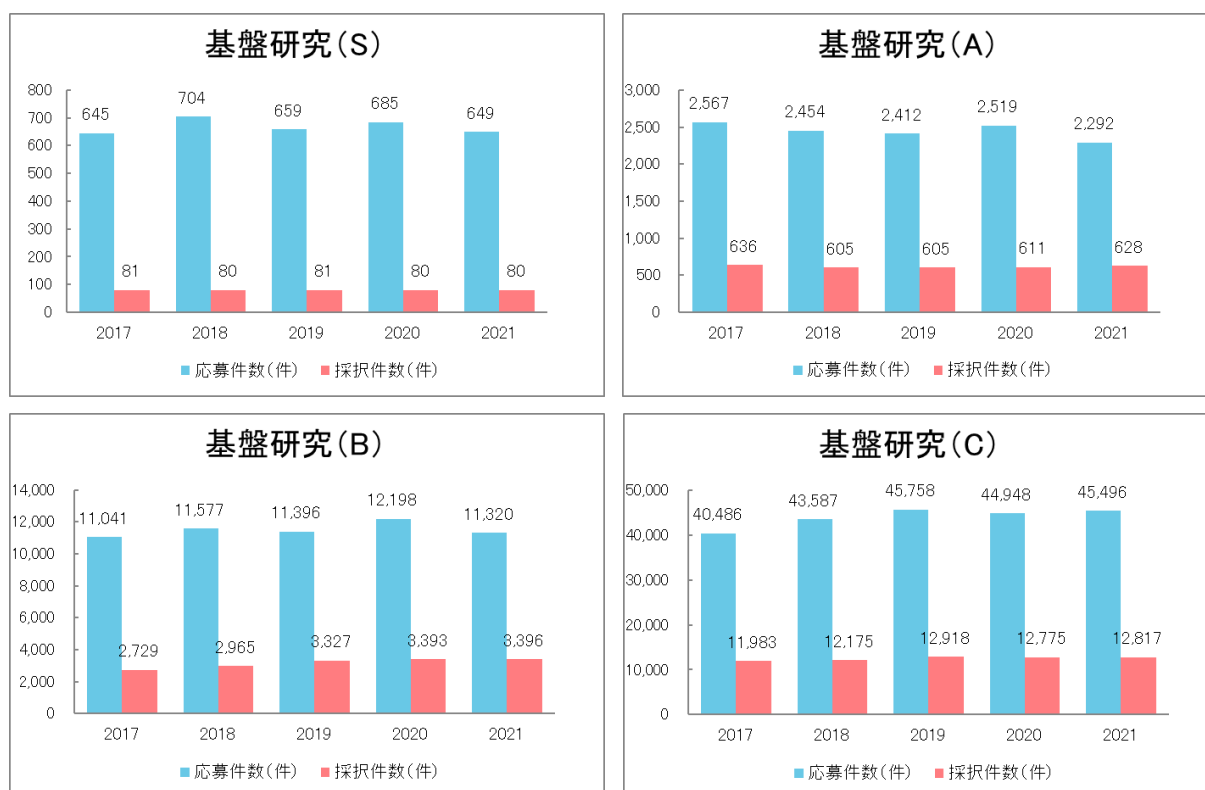
また、各研究種目における応募件数について、基盤研究（S・A・B）はそれぞれ 649 件（前年度 685 件）、2,292 件（同 2,519 件）、11,320 件（同 12,198 件）であり、前年度より減少し、基盤研究（C）は 45,496 件（同 44,948 件）であり、前年度より増加した。

なお、基盤研究（S）の審査については、上述の特別推進研究と同様昨年引き続き、また基盤研究（A）についても、コロナの感染拡大等の影響により、「Web 会議」形式で実施した。

具体的な審査方法等の詳細は、後述の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載した。

応募件数・採択件数の推移





③若手研究

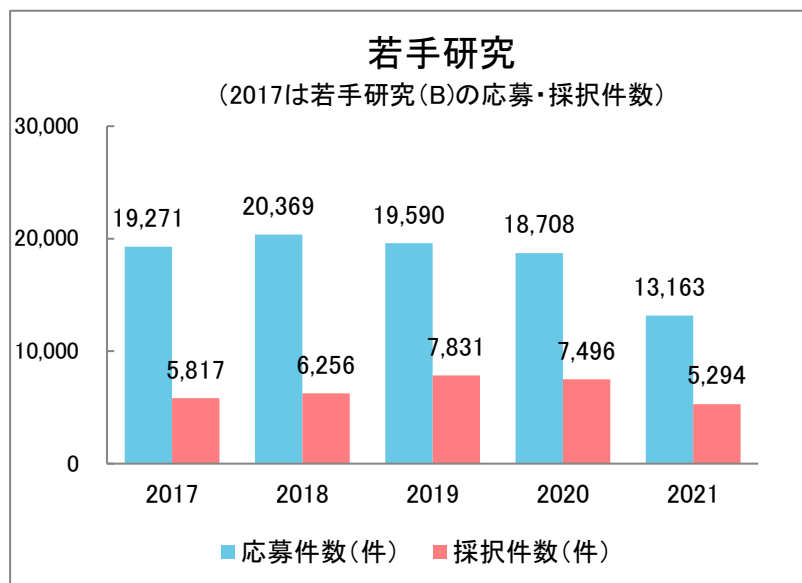
「若手研究」全体での新規応募件数は13,163件（前年度18,708件）、採択件数は5,294件（同7,496件）であり、前年度より応募件数・採択件数ともに減少した。若手研究の予算の拡充により、令和元(2019)年度応募課題より採択件数が大幅に増加したが、今年度は応募件数の大幅な減少に伴い採択件数も大幅に減少した。ただし、採択率は前年度と同程度であった。

令和3(2021)年度応募に関して、令和3(2021)年4月1日までに博士の学位を取得見込みの研究者による応募は769件、博士の学位取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる研究者による応募は115件であった。また、採択件数はそれぞれ279件、48件であった。

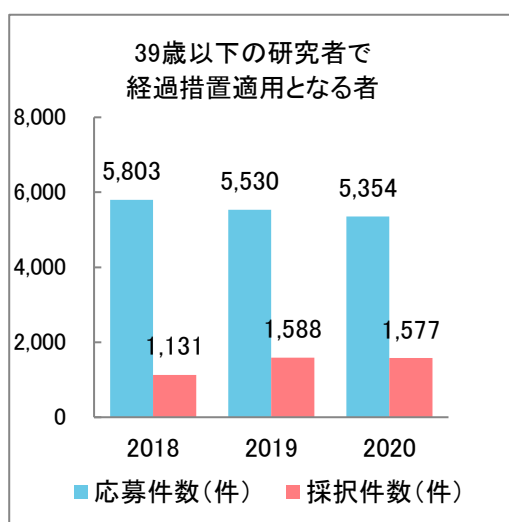
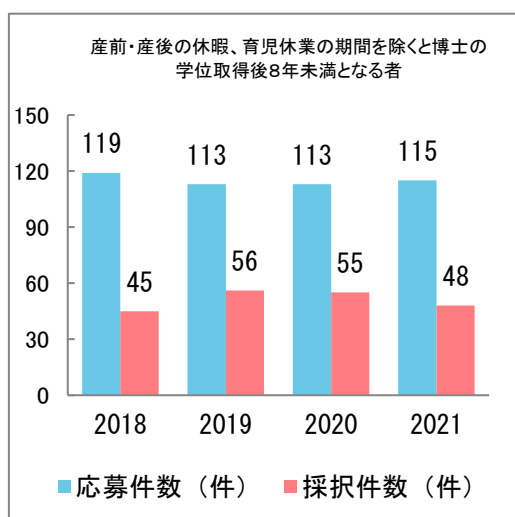
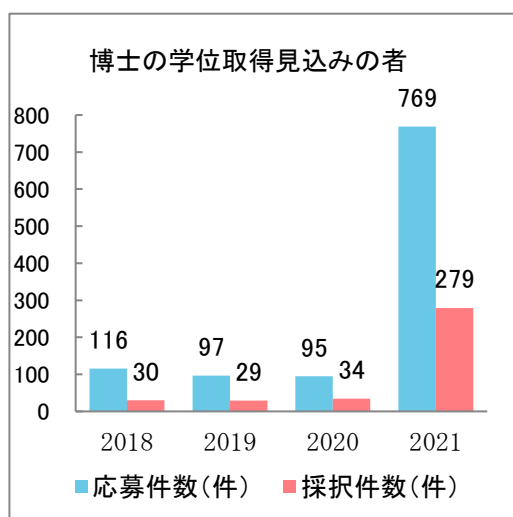
若手研究の応募件数の大幅な減少は、令和2(2020)年度公募まで適用されていた応募資格に関する経過措置（39歳以下の博士号未取得者の応募も認める）が終了し、本枠での応募がなくなったことが主な原因と考えられる。

また、「博士の学位取得見込みの者」として応募のあった件数が前年度から急増しているが、これは、上述の経過措置の終了により、従来「博士号未取得で39歳以下」として応募可能であった者が、令和3(2021)年度公募からは応募が不可能となったため、一部が「博士の学位取得見込みの者」としての区分で応募されたことが原因であると考えられる。

応募件数・採択件数の推移



※平成30(2018)年度より、若手研究(A)は公募を停止し若手研究(B)は「若手研究」に名称を変更



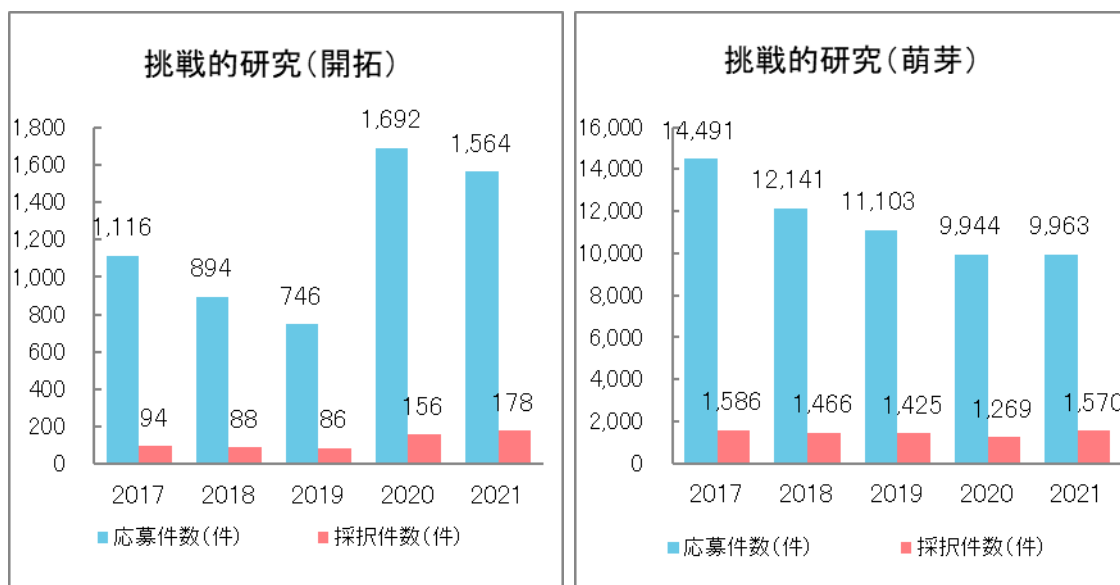
(参考)2018年度～2020年度の経過措置適用となる者による応募件数・採択件数の推移

④挑戦的研究

新規応募件数は（開拓）が1,564件（前年度1,692件）、（萌芽）が9,963件（前年度9,944件）であり、採択件数はそれぞれ178件（前年度156件）、1,570件（前年度1,269件）であった。また本研究種目では、応募額を最大限尊重した配分を行った。

挑戦的研究の審査については、これまで総合審査方式で実施していたが、令和2（2020）年度応募の審査はコロナの感染拡大等の影響により、2段階書面審査方式で実施した。令和3（2021）年度応募の審査は総合審査方式に戻して審査を行ったが、合議審査については「Web会議」形式で実施した。

応募件数・採択件数の推移



⑤研究活動スタート支援

本研究種目の応募資格は、

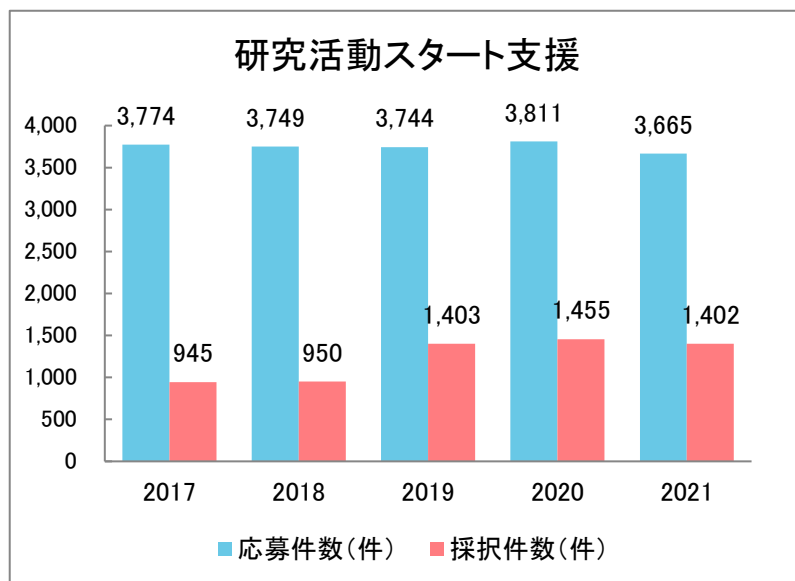
A) 令和2（2020）年9月に公募を行った研究種目の応募締切日の翌日以降に応募資格を得たため、応募できなかった者

B) 応募資格は得ていたが、産前産後の休暇又は育児休業を取得していたため、令和2（2020）年9月に公募を行った研究種目に応募できなかった者としている。

応募資格A) の新規応募件数は3,580件（前年度3,722件）、採択件数は1,365件（同1,421件）で、応募資格B) の新規応募件数は85件（前年度89件）、採択件数37件（同34件）となった。

上記を合計すると、令和3（2021）年度の新規応募件数は3,665件（前年度3,811件）、採択件数は1,402件（同1,455件）であった。

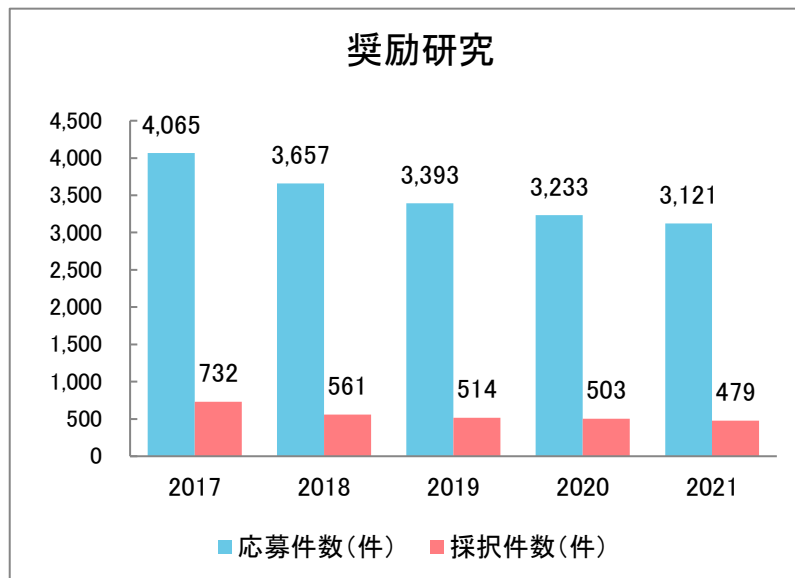
応募件数・採択件数の推移



⑥奨励研究

平成 30(2018)年度から紙媒体による応募方式から電子申請システムによる応募方式へと変更した。応募件数は 3,121 件（前年度 3,233 件）、採択件数は 479 件（同 503 件）であり、前年度より応募件数・採択件数とも減少している。

応募件数・採択件数の推移



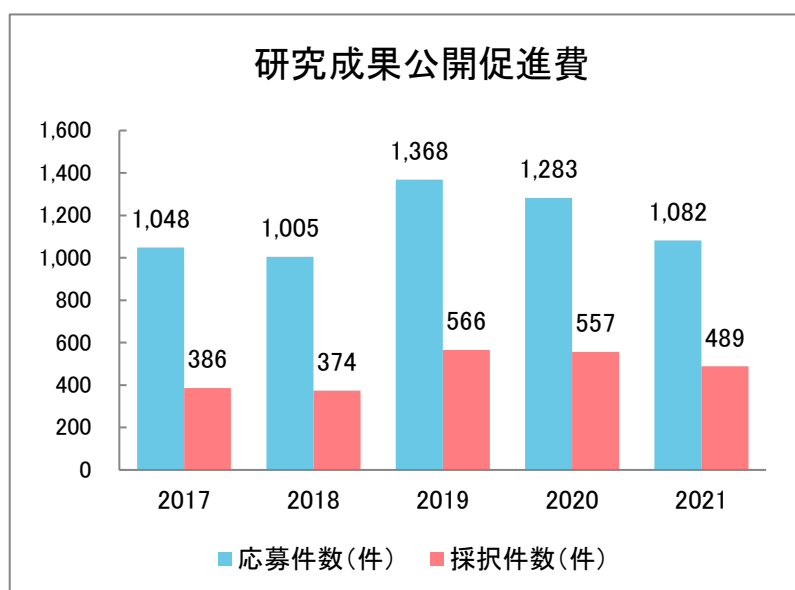
⑦研究成果公開促進費（研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

「研究成果公開促進費（※）」全体での応募件数は 1,082 件（前年度 1,283 件）、採択件数は 489 件（同 557 件）であった。なお、応募件数及び採択件数の内訳は、「研究成果公开发表」の応募件数 347 件（前年度 485 件）、採

択件数 229 件（同 263 件）、「国際情報発信強化」の応募件数 24 件（前年度 21 件）、採択件数 10 件（同 8 件）、「学術図書」の応募件数 636 件（前年度 686 件）、採択件数 218 件（同 252 件）、「データベース」の応募件数 75 件（前年度 91 件）、採択件数 32 件（同 34 件）であった。

研究成果公開發表の応募件数の減少は、コロナの感染拡大等の影響を受けて、研究成果公開發表（B）（ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI）等の応募件数が減少したことが主な原因と考えられる。

応募件数・採択件数の推移



※令和元(2019)年度より、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を研究成果公開促進費（研究成果公開發表）として、公募と審査を実施。

(2) 主な制度改善等

① 科研費審査システム改革 2018 の着実な実施

平成 30(2018)年度より、科研費審査システム改革 2018 に基づき、新たな審査区分、新たな審査方式の下で審査を行っている。

審査区分については、従来の「系・分野・分科・細目表」を廃止し、「小区分・中区分・大区分」で構成される「科学研究費助成事業 審査区分表」を適用（特別推進研究等の一部研究種目は除く。）した。

審査方式については、特別推進研究、基盤研究（S・A）及び挑戦的研究の審査は、書面審査を行った上で、同一の審査委員が合議審査を行う「総合審査」で審査を行った。さらに、特別推進研究及び基盤研究（S）については、専門分野が近い研究者が作成する審査意見書を、書面審査、合議審査で活用するとともに、ヒアリングを行った。

基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究の審査は、書面審査委員が２段階にわたり書面審査を実施する「２段階書面審査」で審査を行った。なお、令和 3(2021)年度より、「若手研究」において以下の改革を行った。

- 若手研究者が継続的・安定的に研究を遂行できるように、研究期間を「２～４年間」から「２～５年間」に延伸した
- 39 歳以下の博士号未取得者の応募を認める経過措置は令和 2(2020)年度公募をもって終了した
- 「若手研究」種目群から「基盤研究」種目群へのスムーズな移行を励行するため、一度「基盤研究」種目群の科研費を受給した者については、「若手研究」への応募は認めないこととした

主な研究種目における審査の具体的な状況は、以下のとおりであった。

（なお、コロナの影響による Web 会議における課題については、「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載。）

<総合審査方式>

○ 特別推進研究、基盤研究（S）

特別推進研究及び基盤研究（S）では広い審査区分（系、大区分）による審査を行っていることから、応募研究課題と専門分野が近い研究者が作成する「審査意見書」を審査時の参考資料として活用している。従前の「審査の着目点」ごとに求めていた専門的な意見に加え、令和 2(2020)年度より、応募研究課題の課題全体を通した「長所」「短所」の両面からの意見を求めることで内容を充実させており、審査委員が行う審査により資するものとしている。

○ 基盤研究（A）、挑戦的研究

総合審査方式については、審査委員、学術システム研究センター研究員双方より、前年と同様相当数の肯定的な意見があった。審査の更なる充実に資するように、審査資料や合議審査の進め方などについて、今後とも改善に向

けて検討していく必要がある。

また、平成 30(2018)年度より、不採択となった研究課題について、審査結果の所見を研究代表者に開示しており、基盤研究（A）は令和 2(2020)年度から、挑戦的研究は令和 3(2021)年度から、採択された課題についても、審査結果の所見を研究代表者に開示するとともに、審査結果の所見の概要を科学研究費助成事業データベース（KAKEN）に公開している。

＜２段階書面審査方式＞

○ 基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究

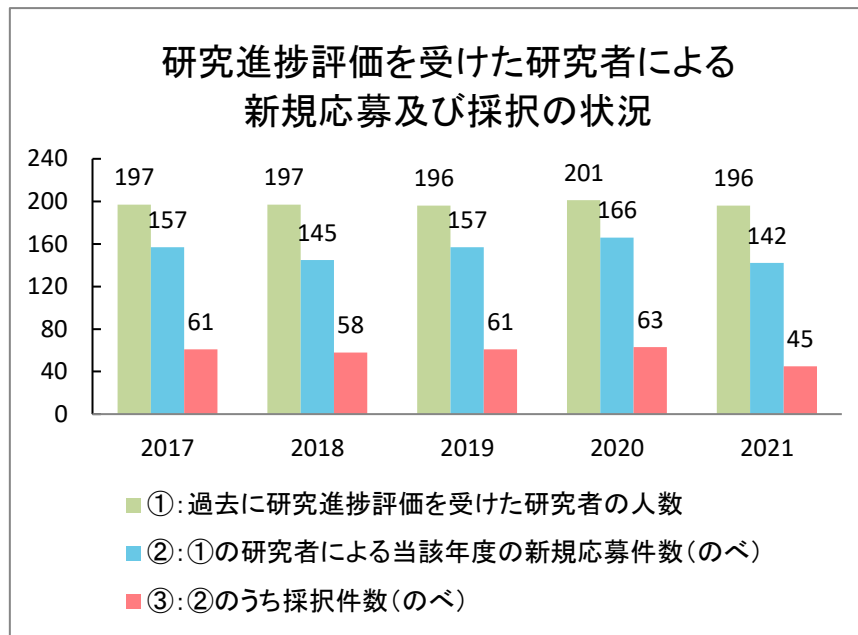
２段階書面審査のボーダーゾーンの評点状況について、１段階目の評点が高得点でも２段階目では低い評点を付しているケース（又はその逆）が見られるなど、２段階目で他の審査委員の評価結果（審査意見）を参考に再評価する仕組みが機能していると考えられる。

②研究進捗評価結果を次の審査に活かす仕組み

「特別推進研究」等の大型研究種目については、平成 20(2008)年度から従来実施していた中間・事後評価を統一して「研究進捗評価」に改め、平成 21(2009)年度からその評価結果を次の応募の際の研究計画に添付し、当該応募研究課題と進捗評価を受けた研究課題の関連性を審査の際に活用するなど、次の審査に活かす仕組みを導入し、優れた研究課題を継続して支援できるような審査を行っている。

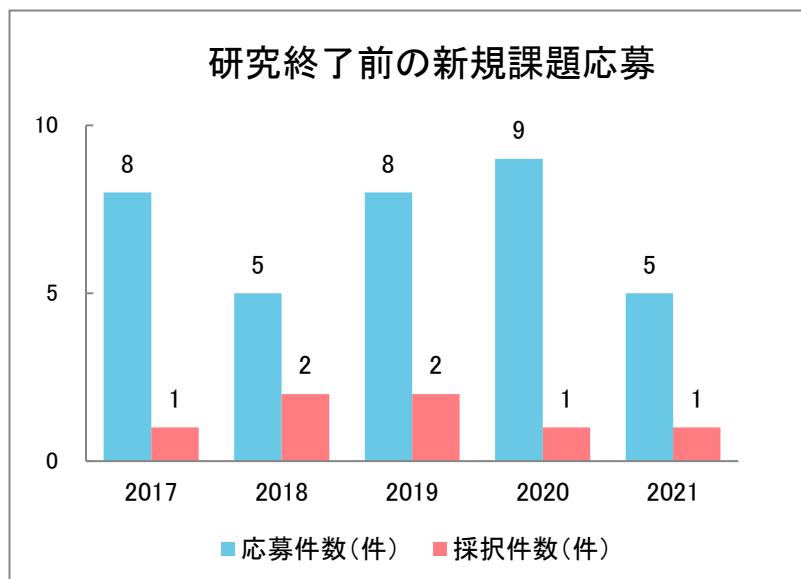
また、評価対象課題の研究代表者に対し、長所（研究成果が期待される点など）及び短所（課題や見直しを要する点など）の両面から評価所見を開示しており、当該評価を受けた研究者においても、次に応募する研究課題の研究計画調書に評価結果を踏まえた研究計画を記載して審査を受けることができるようにしている。

なお令和 3(2021)年度に、研究進捗評価を受けた研究者から、研究期間最終年度前年度あるいは最終年度において、引き続き次の新規応募があった研究課題はのべ 142 件であり、のべ 45 件が採択された。



③研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募できる仕組み

平成 21(2009)年度より、継続課題の早期完了を可能とする仕組みが導入され、研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募することが可能となった。令和 3 (2021)年度は同制度を用いて 5 件（前年度 9 件）の新規課題の応募があり、6 件（同 1 件）の研究課題が採択された。採択された研究課題の内訳は、基盤研究（B）1 件であった。



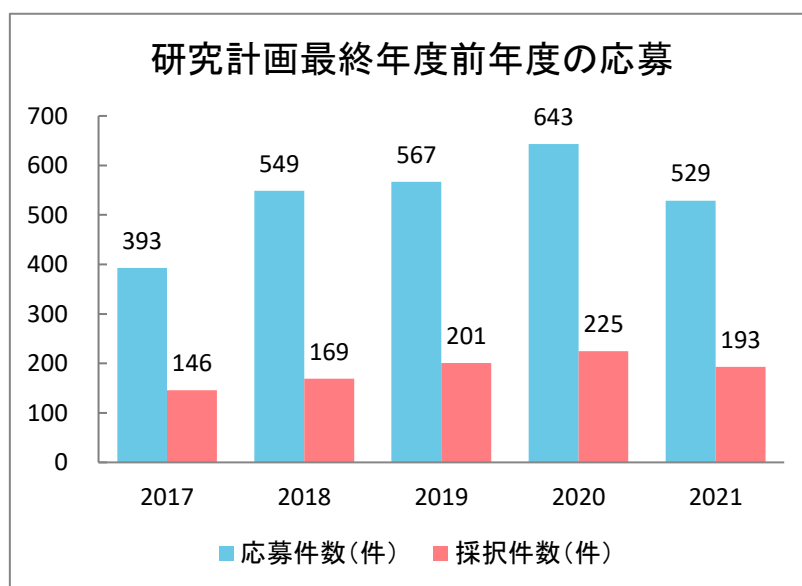
④研究計画最終年度前年度の応募

当初内定時の研究期間が4年以上の研究課題については、重複応募制限の特例として研究計画最終年度前年度の応募を認めており、令和3(2021)年度応募件数は529件(前年度643件)、採択件数は193件(同225件)であった。

また、平成30(2018)年度からは、「若手研究」から「基盤研究」への研究計画の移行が円滑に図られるよう、「若手研究」にあっては研究期間が3年の研究課題についても、基盤研究(S・A・B)への応募に限り、最終年度前年度の応募を可能とした。令和3(2021)年度において、若手研究を基に164件(前年度133件)の応募があり、61件(同41件)が採択された。このうち、基となる研究課題の研究計画が3年である応募件数は110件あり、35件が採択された。

研究費が途切れる心配を少なくし、優れた研究課題について安定して研究できることを目指す研究計画最終年度前年度の応募の仕組みが、一定の効果を得ていると考える。

応募件数・採択件数の推移



⑤若手研究(2回目)と基盤研究(S・A・B)への重複応募について

令和2(2020)年度応募より、優秀な若手研究者に対して、より規模の大きな研究への挑戦を促進するため、「若手研究(2回目)」と「基盤研究(S・A・B)」との重複応募が可能となった。これにより若手研究(2回目)と基盤研究(B)に343件の応募があった(基盤研究(S)及び(A)への応募はなかった)。このうち、若手研究(2回目)と基盤研究(B)の両方、基盤研究(B)のみ、若手研究のみにそれぞれ64件、11件、187件が採択された。これまで基盤研究への応募を躊躇していた若手研究者に対して、一定程度基盤研究への応募を促す効果があったと考えられる。

2. 応募書類の受付

応募書類について、研究種目ごとに次のとおり受付を行った。

(1) 特別推進研究、基盤研究、若手研究、挑戦的研究、奨励研究

「電子申請システム」を活用して、令和2(2020)年11月5日を研究計画調書の提出(送信)期限として受付を行った。

(2) 研究成果公開促進費(研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース)

研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベースについては、「電子申請システム」を活用して、令和2(2020)年11月5日を計画調書の提出(送信)期限として受付を行った。

ただし、学術図書の「完成した原稿等の写し」及び国際情報発信強化の「最新の刊行物等」については、令和2(2020)年11月5日～11月10日を受付期間として、受付を行った。

(3) 研究活動スタート支援

「電子申請システム」を活用して、令和3(2021)年5月10日を研究計画調書の提出(送信)期限として受付を行った。

3. 審査について

「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」に基づき、科学研究費委員会(別紙1)における研究種目ごとの次の小委員会等において、7,869名(前年度7,815名)の審査委員により審査を実施した。

また、審査委員の審査負担の軽減や、次世代の審査委員を育成するなどの観点から、令和2(2020)年度の審査からは、「若手研究」と「若手研究(B)」の採択経験者を審査委員候補者データベースへ登録し審査委員候補者の拡充を図るとともに、年齢層が比較的低い(49歳以下)研究者を「基盤研究(B)」「基盤研究(C)」 「若手研究」の審査委員に積極的に登用した。

(1) 特別推進研究

審査組織	審査・評価第一部会に置かれる専門分野ごとの3小委員会(審査委員数32名(以下同じ。))及び運営小委員会(8名)
審査方法	・審査方式:総合審査(書面審査及び合議審査) ・審査区分:「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」(審査委員8名～14名) ・審査意見書(応募研究課題と専門分野に近い国内及び海外の研究者各3名程度が作成)も活用し、書面審査及びヒアリング対象課題を選定する合議審査を実施 ・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の

	内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定	
審査等の経過	令和2(2020)年12月7日 ～令和3(2021)年1月8日	審査意見書作成者(343名)が審査意見書を作成
	令和3(2021)年1月13日 ～2月26日	書面審査
	令和3(2021)年3月5日 ～3月12日	第1回合議審査(ヒアリング研究課題の選定)
	令和3(2021)年4月12日 ～4月12日	第2回合議審査(ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定) ※人文社会系については第2回合議審査の実施なし
	令和3(2021)年5月10日	運営小委員会(各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定)

(2) 基盤研究 (S)

審査組織	審査・評価第二部会に置かれる専門分野ごとの21小委員会(126名)及び運営小委員会(23名)	
審査方法	・審査方式：総合審査(書面審査及び合議審査) ・審査区分：大区分(審査委員 6名～18名) ・審査意見書(応募研究課題と専門分野に近い国内の研究者3名が作成)も活用し、書面審査及びヒアリング対象課題を選定する合議審査を実施 ・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定	
審査等の経過	令和2(2020)年12月7日 ～令和3(2021)年1月8日	審査意見書作成者(1,668名)が審査意見書を作成
	令和3(2021)年1月29日 ～3月5日	書面審査
	令和3(2021)年3月31日 ～4月21日	第1回合議審査(ヒアリング研究課題の選定)
	令和3(2021)年5月31日 ～6月18日	第2回合議審査(ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定)
	令和3(2021)年6月29日	運営小委員会(各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定)

(3) 基盤研究（A）

審査組織	審査第一部会に置かれる専門分野ごとの 82 小委員会（520 名）	
審査方法	・ 審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査） ・ 審査区分：中区分（審査委員 6 名～8 名） ・ 書面審査及び合議審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 2（2020）年 12 月 9 日 ～令和 3（2021）年 1 月 8 日	書面審査
	令和 3（2021）年 2 月 1 日 ～3 月 17 日	合議審査を実施（採択研究課題を決定）

(4) 挑戦的研究

審査組織	挑戦的研究部会に置かれる専門分野ごとの 89 小委員会（595 名）	
審査方法	・ 審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査） ・ 審査区分：中区分 ・ 事前の選考[各小委員会に属する審査委員（6 名～8 名）のうち 3 名が研究計画調書（概要版）を用いて採択候補研究課題を絞り込む。（応募件数が少ない場合は事前の選考は実施しない。）] ・ 審査委員全員が研究計画調書を用いて書面審査 ・ 合議審査により採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 2（2020）年 12 月 9 日 ～令和 3（2021）年 1 月 14 日	事前の選考
	令和 3（2021）年 3 月 1 日 ～4 月 20 日	書面審査
	令和 3（2021）年 4 月 30 日 ～6 月 23 日	合議審査を実施（採択研究課題を決定）

(5) 基盤研究（B）

審査組織	審査第二部会に置かれる専門分野ごとの 314 小委員会（1,885 名）	
審査方法	・ 審査方式：2 段階書面審査 ・ 審査区分：小区分（審査委員 6 名） ・ 2 段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 2（2020）年 12 月 9 日 ～令和 3（2021）年 1 月 15 日	1 段階目の書面審査
	令和 3（2021）年 2 月 5 日 ～2 月 19 日	2 段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(6) 基盤研究 (C)

審査組織	審査第三部会に置かれる専門分野ごとの 648 小委員会 (2,605 名)	
審査方法	・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：小区分（審査委員 4名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和2(2020)年12月9日 ～令和3(2021)年1月15日	1段階目の書面審査
	令和3(2021)年2月5日 ～2月19日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(7) 若手研究

審査組織	審査第四部会に置かれる専門分野ごとの 390 小委員会 (1,564 名)	
審査方法	・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：小区分（審査委員 4名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和2(2020)年12月9日 ～令和3(2021)年1月15日	1段階目の書面審査
	令和3(2021)年2月5日 ～2月19日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(8) 研究活動スタート支援

審査組織	審査第五部会に置かれる専門分野ごとの 65 小委員会 (260 名)	
審査方法	・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：「研究活動スタート支援 審査区分」（審査委員 4名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和3(2021)年6月8日 ～7月8日	1段階目書面審査
	令和3(2021)年7月28日 ～8月5日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(9) 奨励研究

審査組織	奨励研究部会に置かれる専門分野ごとの 59 小委員会 (177 名)	
審査方法	・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：「奨励研究 審査区分表」（審査委員 3名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	

審査の経過	令和2(2020)年12月9日 ～令和3(2021)年1月15日	1段階目の書面審査
	令和3(2021)年2月5日 ～2月19日	2段階目の書面審査(採択研究課題を決定)

(10) 研究成果公開促進費（研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

審査組織	成果公開部会に置かれる6小委員会(105名)及び運営小委員会(6名)		
審査方法	①国際情報発信強化	〔国際情報発信強化(A)・オープンアクセス刊行支援〕	・国際情報発信強化小委員会に属する15名(編集長等経験者9名及び刊行業務等担当者6名)の審査委員が書面審査を実施 ・小委員会において合議審査により採択課題を決定
		〔国際情報発信強化(B)〕	・国際情報発信強化小委員会に属する6名～12名(審査を希望する審査区分の編集長等経験者3名(2区分にまたがる場合は6名、3区分にまたがる場合は9名)及び刊行業務担当者3名)の関連審査委員が書面審査を実施 ・小委員会において合議審査により採択課題を決定
	② 研究成果公开发表(研究成果公开发表(B)のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く)、学術図書、データベース		・各小委員会に属する3名の関連審査委員が書面審査を実施 ・各小委員会において合議審査により採択課題を決定
	③ 研究成果公开发表(B)のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」		・研究成果の社会還元・普及小委員会に属する21名の審査委員が書面審査を実施 ・合議審査により採択課題

			を決定
審査の経過	①国際情報発信強化	令和 2 (2020) 年 12 月 9 日～令和 3 (2021) 年 1 月 15 日	書面審査
		令和 3 (2021) 年 1 月 18 日及び 令和 3 (2021) 年 2 月 22 日	合議審査 (採択課題を決定)
	② 研究成果公開発表 (研究成果公開発表 (B) のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く)、学術図書、データベース	令和 2 (2020) 年 12 月 9 日～令和 3 (2021) 年 1 月 8 日	書面審査
		令和 3 (2021) 年 2 月 1 日～令和 3 (2021) 年 3 月 12 日	合議審査 (採択課題を決定)
	③ 研究成果公開発表 (B) のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」	令和 2 (2020) 年 12 月 14 日～令和 3 (2021) 年 1 月 14 日	書面審査
		令和 3 (2021) 年 2 月 12 日	合議審査 (採択候補課題を決定)
		令和 3 (2021) 年 2 月 18 日	研究成果の社会還元・普及小委員会において採択課題を決定

4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について

(1) 審査について

コロナについては、昨年1月に国内でも感染者が確認され、以後、国内における感染者が拡大するなどの経過を経て現在の状況に至っている。

このため、総合審査方式における合議審査は、昨年引き続き、審査委員がJSPSに一同に会する「集合会議」形式ではなく、Web上の会議システムを利用した「Web会議」形式で実施した。

個別の対応状況については、以下のとおりであった。

①特別推進研究、基盤研究（S）

書面審査の終了後、同一の審査委員による第1回合議審査において、ヒアリング実施対象とする研究課題の選定を行い、その後、第2回合議審査においてヒアリングを実施し、合議により採択候補研究課題を選定することとしている。

令和3（2021）年度応募の審査も、コロナの感染拡大等の影響を踏まえ、令和2（2020）年度応募の審査再開後に実施した方法と同様に、第1回合議審査（ヒアリング研究課題の選定）、第2回合議審査（ヒアリングの実施及び採択候補研究課題の選定）ともに「Web会議」形式で実施した。

なお、「Web会議」形式による審査にあたり、確実に審査を完了させるために行った主な対応は以下のとおり。

- ・合議審査の開催に先立ち、事務局と審査委員及び応募者による「Web会議」システムへの試験接続を行い、通信環境上の障害発生要因の有無を確認。
- ・合議審査の実施にあたり必要とされる審査の考え方、手順、具体的な審査規程等の内容の共通認識を図るため、審査委員への事前説明を実施し、疑問点をあらかじめ解消。
- ・従前、合議審査当日のヒアリング時に対面で行っていた応募者からの説明（10分間）は、「動画（10分間の内容説明のナレーション付き）」の提出を求めることに代えるとともに、ヒアリングの実施に先立ち審査委員へ当該動画を提供し内容の確認を依頼。
- ・第2回合議審査におけるヒアリング時には、「Web会議」システムを通じた応募者との質疑応答により応募課題に対する疑問点の解消を図った。

②基盤研究（A）、挑戦的研究

従来は、書面審査の後の合議審査は「集合会議」により実施し採択研究課題を決定していたが、令和3（2021）年度応募の審査では、基盤研究（A）は82の小委員会を、挑戦的研究は89の小委員会を「Web会議」形式により実施し、採択研究課題の選定を行った。

なお、確実に審査を完了させるため、合議審査の開催に先立ち、基盤研究（A）

は 520 名の全審査委員に対して、挑戦的研究は 595 名の全審査委員に対して「Web 会議」システムへの試験接続を行い、通信環境上の障害発生要因の有無を確認し、必要に応じて機材を送付する等の対応を行った。

(2) 「Web 会議」形式の課題

令和 2 (2020) 年度応募の審査では、特別推進研究および基盤研究 (S) の一部委員会のみ「Web 会議」形式による審査を行ったが、令和 3 (2021) 年度応募の審査は総合審査方式におけるすべての合議審査を「Web 会議」形式により行った。

会議の運営については大きなトラブルが発生することなく全合議審査を終了することができた一方、委員各位に依存せざるを得ない通信環境等については、JSPS でコントロールできないこともあり、全くストレスのない会議とするまでには引き続き検証や工夫が必要である。

また、審査終了後、審査委員に対して審査に関するアンケートを実施したところ、従来の「集合会議」形式の方が審査委員間で細かな意思疎通を行いやすいという意見があった一方、「Web 会議」形式においても「集合会議」形式との差は余り感じられず、十分議論を行うことができたという肯定的な意見も多く寄せられた。

特別推進研究及び基盤研究 (S) で実施しているヒアリングの構成については、「説明資料」及び「説明動画ファイル」をヒアリングの実施に先立って確認する方法は繰り返し内容が確認でき理解がより深まったため非常に有益であるという意見が相当数あったが、応募者の熱意等を直接確認できるように質疑応答だけではなく簡単なプレゼンテーション (概要説明) もヒアリング当日に実施してほしいという意見も複数寄せられた。

また、審査会を運営する事務局の課題としては、「Web 会議」形式の実施に当たっては従来の「集合会議」に比べ多くの事務職員を割く必要があり、1 日に開催可能な最大審査会数が減少した点が挙げられる。このことにより、基盤研究 (A) の令和 3 (2021) 年度応募課題の内定日は、前年度から 4 日遅れ、4 月 5 日となった。

令和 2 (2020) 年度及び令和 3 (2021) 年度の審査の実施により見えてきた課題は多様であり、審査委員からの意見等を踏まえ、合議審査等の更なる充実に資するように、引き続き検討していく必要がある。今後、審査に参画いただく委員各位におかれても、「Web 会議」形式の特異性をできる限り理解いただき、必要な協力をよろしくお願いしたい。

5. 応募・採択等の状況

(別紙3) 令和3(2021)年度科研費助成事業の審査結果(研究種目別の応募・採択等の状況)

(別紙4) 研究機関種別の応募・採択等の状況

(別紙5) 職種別の応募・採択等の状況

(別紙6) 男女別の応募・採択等の状況

(別紙7) 年齢別の応募・採択等の状況

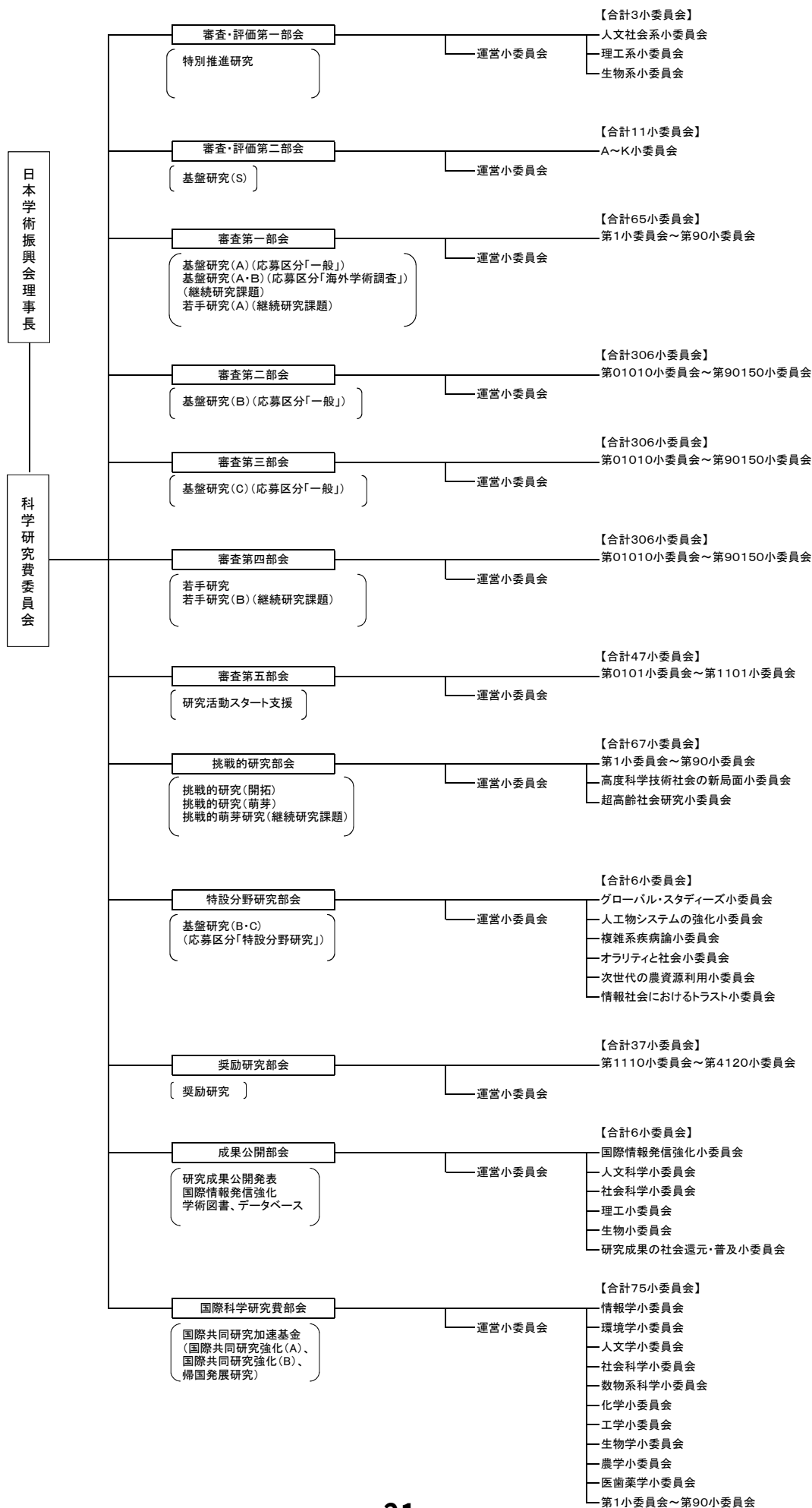
注1) 別紙3～7に記載の配分額は直接経費の配分額を指す。

注2) 別紙3～7について、科研費の審査(ピアレビュー)に当たっては研究者の属性等を考慮した審査は行っていないが、審査結果の参考として集計したもの。

科学研究費委員会組織図

別紙1

【小委員会合計: 1, 235小委員会(分割は含まない)】



令和3(2021)年度公募 審査スケジュール (基盤研究 (A・B・C)、若手研究)

		基盤(A)	基盤(B)	基盤(C)	若手
		82小委員会	314小委員会	648小委員会	390小委員会
12月		↑ 12月9日～1月8日 書面審査 ↓ 2月1日～3月17日 合議審査			
1月			12月9日～1月15日 書面審査(1段階目)		
2/1	月	第16小委員会Ⅱ(6)			
2	火	第7小委員会Ⅰ(8)	2月5日～2月19日 書面審査(2段階目)		
		第11小委員会(6)			
3	水	第43小委員会Ⅱ(6)			
		第58小委員会(8)			
4	木	第32小委員会(6)			
		第51小委員会(6)			
5	金	第6小委員会(6)			
		第21小委員会Ⅰ(6)			
		第52小委員会(6)			
6	土				
7	日				
8	月	第14小委員会(6)			
		第40小委員会(6)			
		第43小委員会Ⅰ(6)			
9	火	第15小委員会Ⅱ(6)			
		第34小委員会(6)			
		第41小委員会(6)			
10	水	第3小委員会Ⅰ(7)			
		第38小委員会(6)			
		第63小委員会Ⅰ(6)			
11	木				
12	金	第4小委員会(6)			
		第35小委員会(6)			
		第37小委員会(6)			
13	土				
14	日				

15	月	第3小委員会Ⅱ（7）				
		第13小委員会Ⅰ（6）				
		第42小委員会（6）				
16	火	第47小委員会（6）				
		第48小委員会（6）				
		第56小委員会（7）				
17	水	第54小委員会（6）				
		第55小委員会（6）				
		第61小委員会Ⅱ（8）				
18	木	第2小委員会（8）				
		第39小委員会（7）				
		第44小委員会（6）				
19	金	第13小委員会Ⅱ（6）				
		第26小委員会Ⅱ（6）				
		第45小委員会（6）				
20	土					
21	日					
22	月	第7小委員会Ⅱ（8）				
		第10小委員会（6）				
		第25小委員会（6）				
23	火					
24	水	第15小委員会Ⅰ（6）				
		第50小委員会（6）				
		第90小委員会Ⅱ（6）				
25	木					
26	金					
27	土					
28	日					
3/1	月	第17小委員会Ⅲ（6）				
		第61小委員会Ⅰ（8）				
		第90小委員会Ⅰ（6）				
2	火	第16小委員会Ⅰ（6）				
		第21小委員会Ⅱ（6）				
		第22小委員会Ⅱ（6）				
3	水	第22小委員会Ⅰ（6）				
		第28小委員会Ⅱ（6）				
		第57小委員会（8）				
4	木	第5小委員会（7）				
		第9小委員会（8）				
		第17小委員会Ⅰ（6）				
5	金	第21小委員会Ⅲ（6）				
		第49小委員会（7）				
		第53小委員会（6）				

4月1日（木）交付内定に
向けた作業

- ・審査結果の確認、取りまとめ
- ・交付内定通知作成
- ・各大学等への発送準備

6	土					
7	日					
8	月	第1小委員会（8）				
		第31小委員会（6）				
		第63小委員会Ⅱ（6）				
9	火	第24小委員会（6）				
		第27小委員会（6）				
		第28小委員会Ⅰ（6）				
10	水	第8小委員会（6）				
		第17小委員会Ⅱ（6）				
		第46小委員会（6）				
11	木	第12小委員会（6）				
		第26小委員会Ⅰ（6）				
		第62小委員会（6）				
12	金	第19小委員会（6）				
		第20小委員会（6）				
		第30小委員会（6）				
13	土					
14	日					
15	月	第18小委員会（6）				
		第33小委員会（6）				
		第36小委員会（6）				
16	火	第29小委員会（6）				
		第59小委員会（6）				
		第64小委員会（6）				
17	水	第23小委員会（6）				
		第60小委員会Ⅰ（8）				
		第60小委員会Ⅱ（8）				
応募件数		2,292件	11,320件	45,496件	13,163件	
審査委員数		520名	1,885名	2,605名	1,564名	

※ () 内の数字は審査委員数を示している。

※小委員会名の数字は、中区分を示している。

審査区分表：https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html

令和3(2021)年度科学研究費助成事業の審査結果

(1) 新規採択分

令和3(2021)年11月現在

研 究 種 目	研 究 課 題 数			研 究 経 費	1課題当たりの配分額	
	応募	採択	採択率	配分額	平均	最高
	件	件	%	千円	千円	千円
科学研究費	[97,843] 91,337	[27,750] 25,855	[28.4] 28.3	[59,095,640] 56,554,050 【 16,904,010 】	[2,130] 2,187	[151,900] 194,900
(1) 特別推進研究	[105] 104	[12] 11	[11.4] 10.6	[1,172,800] 1,191,900 【 357,570 】	[97,733] 108,355	[151,900] 194,900
(2) 基盤研究(S)	[685] 649	[80] 80	[11.7] 12.3	[3,209,800] 3,094,700 【 928,410 】	[40,123] 38,684	[114,000] 95,000
(3) 基盤研究(A)	[2,519] 2,292	[611] 628	[24.3] 27.4	[7,066,900] 6,965,400 【 2,089,620 】	[11,566] 11,091	[29,200] 42,900
(4) 基盤研究(B)	[12,198] 11,320	[3,393] 3,396	[27.8] 30.0	[17,157,300] 16,967,300 【 5,090,190 】	[5,057] 4,996	[13,000] 12,900
(5) 基盤研究(C)	[44,948] 45,496	[12,775] 12,817	[28.4] 28.2	[15,248,700] 14,621,600 【 4,386,480 】	[1,194] 1,141	[3,000] 3,100
(6) 挑戦的研究(開拓)	[1,692] 1,564	[156] 178	[9.2] 11.4	[1,117,400] 1,145,800 【 343,740 】	[7,163] 6,437	[19,000] 17,400
(7) 挑戦的研究(萌芽)	[9,944] 9,963	[1,269] 1,570	[12.8] 15.8	[2,921,400] 3,574,000 【 1,072,200 】	[2,302] 2,276	[4,600] 4,700
(8) 若手研究	[18,708] 13,163	[7,496] 5,294	[40.1] 40.2	[9,497,000] 7,264,700 【 2,179,410 】	[1,267] 1,372	[3,200] 3,500
(9) 研究活動スタート支援	[3,811] 3,665	[1,455] 1,402	[38.2] 38.3	[1,483,000] 1,521,300 【 456,390 】	[1,019] 1,085	[1,100] 1,200
(10) 奨励研究	[3,233] 3,121	[503] 479	[15.6] 15.3	[221,340] 207,350	[440] 433	[480] 470
研究成果公開促進費	[1,283] 1,082	[557] 489	[43.4] 45.2	[685,680] 602,020	[1,231] 1,231	[13,800] 12,800
研究成果公開発表	[485] 347	[263] 229	[54.2] 66.0	[141,980] 125,120	[540] 546	[4,300] 6,800
国際情報発信強化	[21] 24	[8] 10	[38.1] 41.7	[43,600] 38,000	[5,450] 3,800	[13,800] 6,300
学術図書	[686] 636	[252] 218	[36.7] 34.3	[392,300] 355,600	[1,557] 1,631	[8,100] 12,800
データベース	[91] 75	[34] 32	[37.4] 42.7	[107,800] 83,300	[3,171] 2,603	[8,500] 6,900
合 計	[99,126] 92,419	[28,307] 26,344	[28.6] 28.5	[59,781,320] 【 17,630,760 】 57,156,070 【 16,904,010 】	[2,112] 2,170	[151,900] 194,900

(注1) 上段[]内は前年度、下段【 】は間接経費(外数)を示す。

(注2) 基盤研究(C)、挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究、研究活動スタート支援については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、令和3年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3) 「特別研究員奨励費」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

令和3(2021)年度科学研究費助成事業の審査結果

(2) 新規採択分＋継続分

令和3(2021)年11月現在

研究種目	研究課題数			研究経費	1課題当たりの配分額	
	応募	採択	採択率	配分額	平均	最高
	件	件	%	千円	千円	千円
科学研究費	[150,178] 146,574	[79,995] 81,055	[53.3] 55.3	[145,857,151] 146,395,673 [43,855,376]	[1,823] 1,806	[208,500] 194,900
(1) 特別推進研究	[155] 152	[61] 59	[39.4] 38.8	[4,952,300] 5,111,700 [1,533,510]	[81,185] 86,639	[208,500] 194,900
(2) 基盤研究(S)	[1,015] 963	[410] 394	[40.4] 40.9	[11,534,800] 11,216,800 [3,365,040]	[28,134] 28,469	[114,000] 95,000
(3) 基盤研究(A)	[4,130] 3,922	[2,201] 2,258	[53.3] 57.6	[18,705,400] 19,197,080 [5,759,124]	[8,499] 8,502	[29,200] 42,900
(4) 基盤研究(B) ※1	[19,573] 19,293	[10,715] 11,332	[54.7] 58.7	[39,963,289] 41,569,943 [12,470,983]	[3,730] 3,668	[13,000] 12,900
(5) 基盤研究(C)	[71,689] 73,243	[39,516] 40,564	[55.1] 55.4	[38,246,000] 37,994,900 [11,398,470]	[968] 937	[3,000] 3,100
(6) 挑戦的萌芽研究	[1] 1	[1] 1	[100.0] 100.0	[0] 0 [0]	[0] 0	[0] 0
(7) 挑戦的研究(開拓)	[1,911] 1,861	[375] 475	[19.6] 25.5	[2,153,900] 2,532,900 [759,870]	[5,744] 5,332	[19,000] 17,400
(8) 挑戦的研究(萌芽)	[12,017] 11,882	[3,342] 3,489	[27.8] 29.4	[6,457,700] 6,842,100 [2,052,630]	[1,932] 1,961	[4,600] 4,700
(9) 若手研究(A) ※1	[206] 6	[191] 6	[92.7] 100.0	[514,778] 11,263 [3,379]	[2,695] 1,877	[7,000] 3,000
(10) 若手研究(B)	[720] 100	[720] 100	[100.0] 100.0	[326,300] 0 [0]	[453] 0	[2,100] 0
(11) 若手研究	[30,310] 26,894	[19,098] 19,025	[63.0] 70.7	[19,917,800] 18,760,000 [5,628,000]	[1,043] 986	[3,200] 3,500
(12) 研究活動スタート支援	[5,209] 5,126	[2,853] 2,863	[54.8] 55.9	[2,860,400] 2,947,900 [884,370]	[1,003] 1,030	[1,100] 1,200
(13) 奨励研究	[3,242] 3,131	[512] 489	[15.8] 15.6	[224,484] 211,087	[438] 432	[580] 580
研究成果公開促進費	[1,357] 1,152	[631] 559	[46.5] 48.5	[1,032,980] 891,120	[1,637] 1,594	[35,300] 35,300
研究成果公開発表	[489] 349	[267] 231	[54.6] 66.2	[169,680] 134,820	[636] 584	[7,400] 7,400
国際情報発信強化	[74] 73	[61] 59	[82.4] 80.8	[323,000] 284,200	[5,295] 4,817	[35,300] 35,300
学術図書	[690] 640	[256] 222	[37.1] 34.7	[400,800] 359,100	[1,566] 1,618	[8,100] 12,800
データベース	[104] 90	[47] 47	[45.2] 52.2	[139,500] 113,000	[2,968] 2,404	[8,500] 6,900
合 計	[151,535] 147,726	[80,626] 81,614	[53.2] 55.2	[146,890,131] [45,723,648] 147,286,793 [43,855,376]	[1,822] 1,805	[208,500] 194,900

(注1) 上段〔 〕内は前年度、下段【 】は間接経費(外数)を示す。

(注2) 基盤研究(C)、挑戦的萌芽研究、挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究(B)、若手研究、研究活動スタート支援については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、令和3年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3) 「特別研究員奨励費」、基盤研究(B・C)「特設分野研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

なお、基盤研究(B・C)「特設分野研究」の令和3(2021)年度継続分の応募・採択状況は、応募数(72件)、採択数(72件)、配分額(直接経費 150,400千円、間接経費 45,120千円)であった。

(注4) ※1は、令和3年度の配分額を計上。

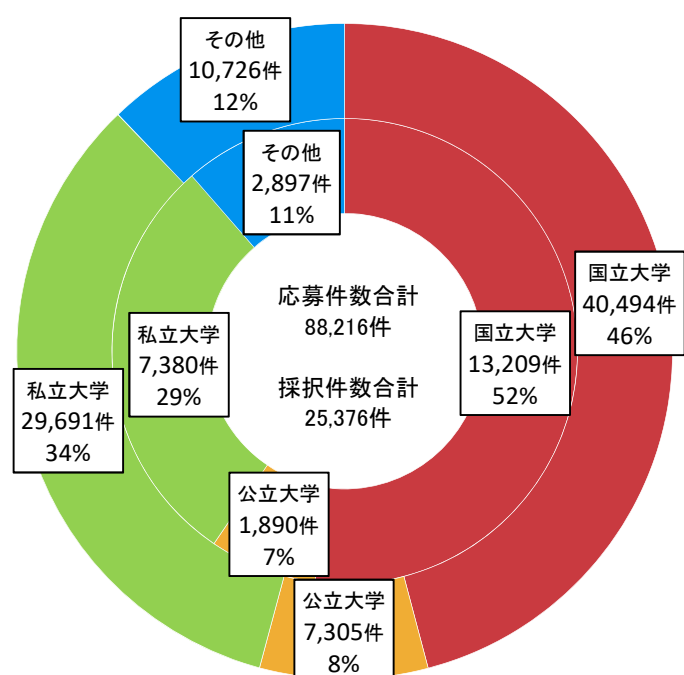
研究機関種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
国立大学	40,494	13,209	32.6%	34,712,600	2,628
公立大学	7,305	1,890	25.9%	3,194,500	1,690
私立大学	29,691	7,380	24.9%	11,441,500	1,550
その他	10,726	2,897	27.0%	6,998,100	2,416
短期大学、 高等専門学校	2,867	409	14.3%	599,100	1,465
大学共同利用機関法人	920	299	32.5%	1,336,300	4,469
国公立試験研究機関	1,008	361	35.8%	629,400	1,743
特殊法人、 独立行政法人等	5,051	1,593	31.5%	3,921,300	2,462
一般社団法人、 一般財団法人	706	193	27.3%	393,800	2,040
企業等の研究所	174	42	24.1%	118,200	2,814
合 計	88,216	25,376	28.8%	56,346,700	2,220

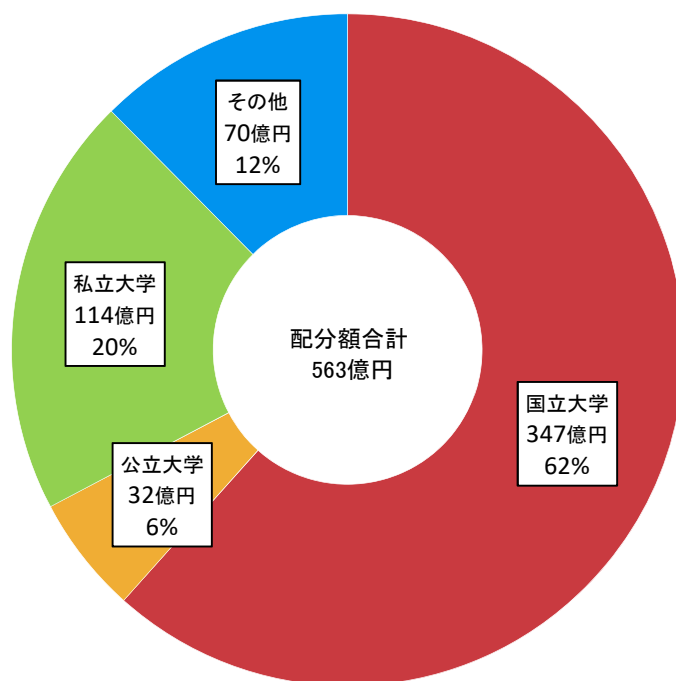
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数



配分額

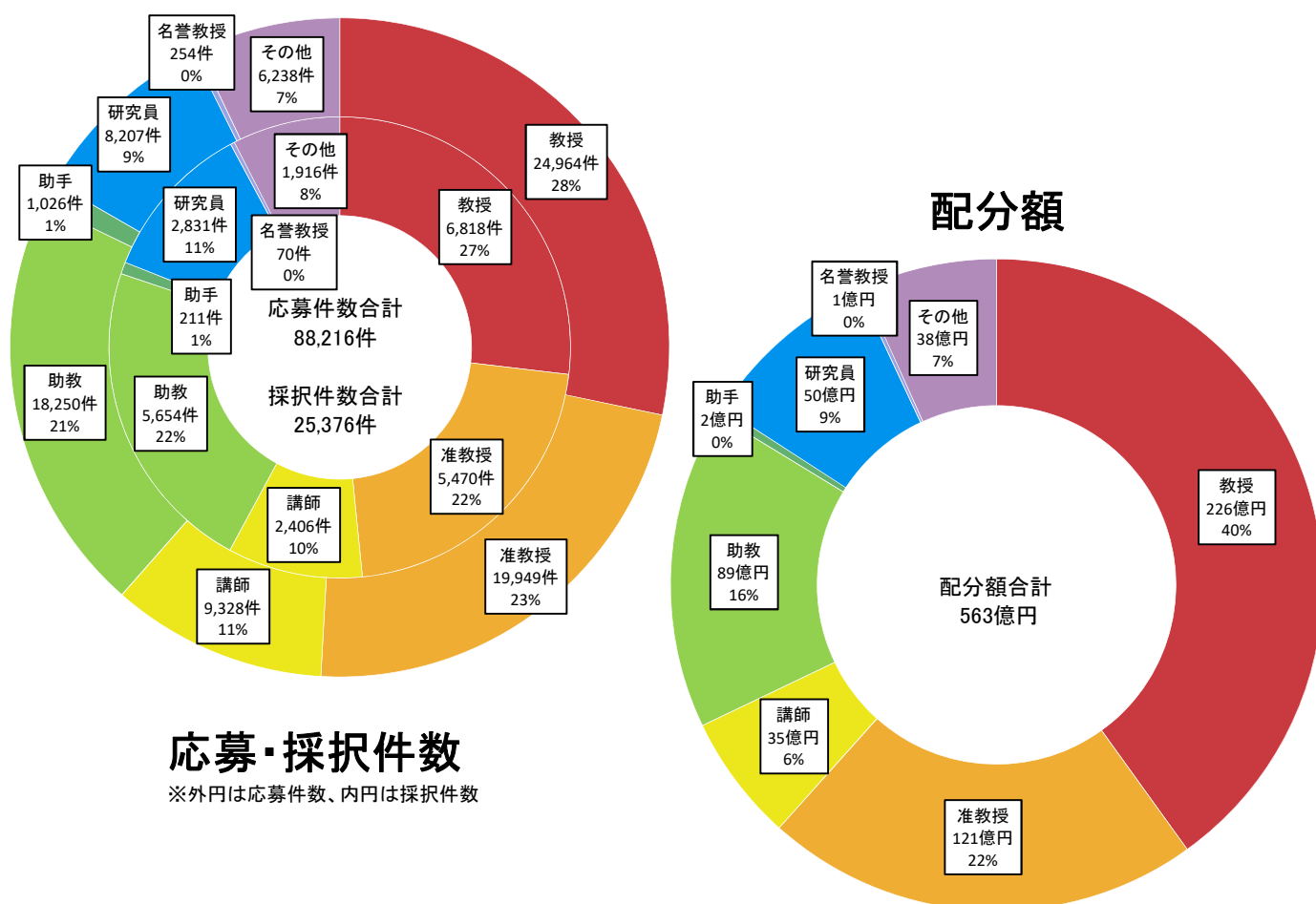


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

職種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
教 授	24,964	6,818	27.3%	22,572,700	3,311
准 教 授	19,949	5,470	27.4%	12,146,500	2,221
講 師	9,328	2,406	25.8%	3,541,600	1,472
助 教	18,250	5,654	31.0%	8,902,100	1,574
助 手	1,026	211	20.6%	241,200	1,143
研 究 員	8,207	2,831	34.5%	5,027,600	1,776
名誉教授	254	70	27.6%	124,800	1,783
そ の 他	6,238	1,916	30.7%	3,790,200	1,978
合 計	88,216	25,376	28.8%	56,346,700	2,220

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

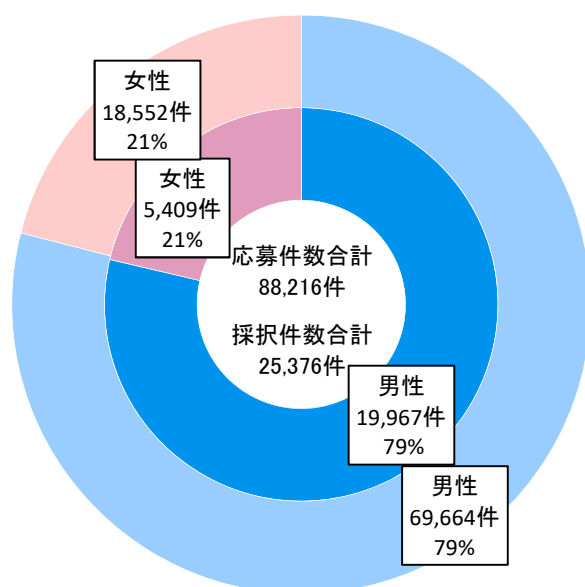


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

男女別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
男 性	69,664	19,967	28.7%	48,466,900	2,427
女 性	18,552	5,409	29.2%	7,879,800	1,457
合 計	88,216	25,376	28.8%	56,346,700	2,220

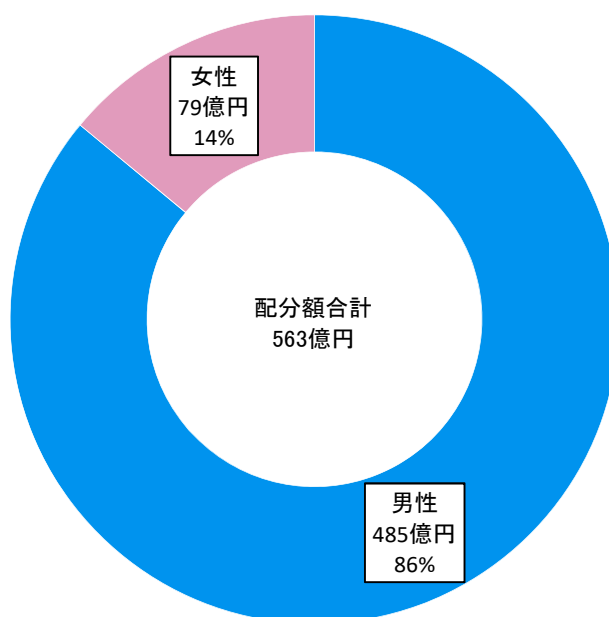
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

配分額

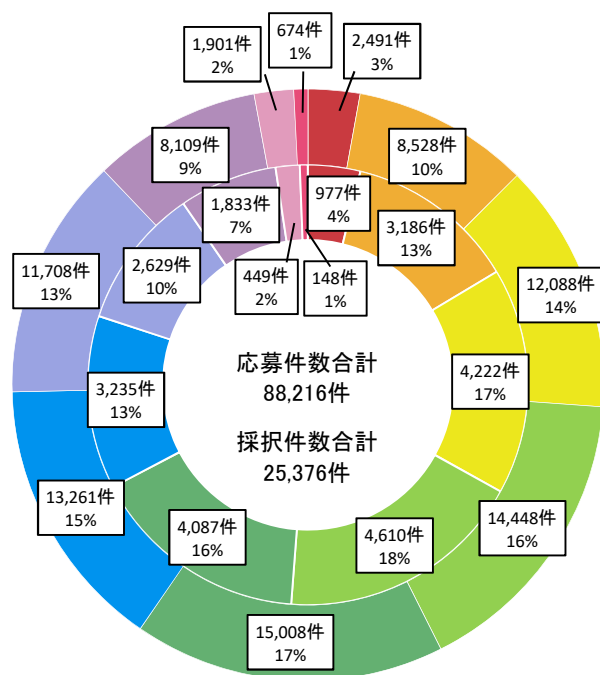


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

年齢別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
30歳未満	2,491	977	39.2%	1,234,100	1,263
30歳以上 35歳未満	8,528	3,186	37.4%	4,844,700	1,521
35歳以上 40歳未満	12,088	4,222	34.9%	7,407,700	1,755
40歳以上 45歳未満	14,448	4,610	31.9%	9,286,300	2,014
45歳以上 50歳未満	15,008	4,087	27.2%	9,536,600	2,333
50歳以上 55歳未満	13,261	3,235	24.4%	8,458,100	2,615
55歳以上 60歳未満	11,708	2,629	22.5%	8,036,400	3,057
60歳以上 65歳未満	8,109	1,833	22.6%	6,180,900	3,372
65歳以上 70歳未満	1,901	449	23.6%	1,061,900	2,365
70歳以上	674	148	22.0%	300,000	2,027
合 計	88,216	25,376	28.8%	56,346,700	2,220

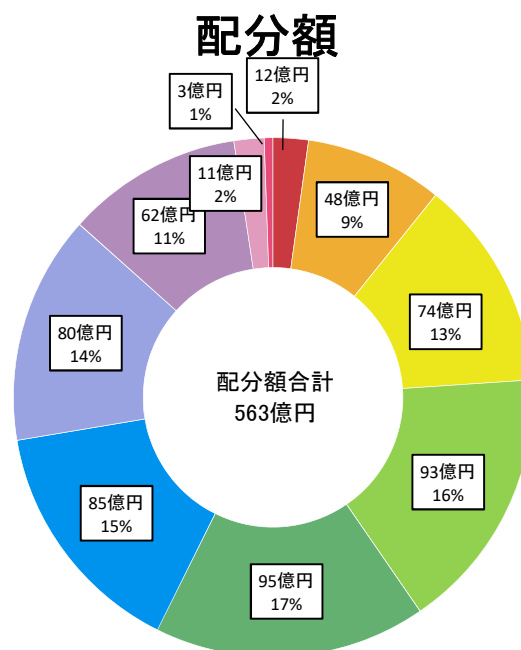
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

- 30歳未満
- 30歳以上 35歳未満
- 35歳以上 40歳未満
- 40歳以上 45歳未満
- 45歳以上 50歳未満
- 50歳以上 55歳未満
- 55歳以上 60歳未満
- 60歳以上 65歳未満
- 65歳以上 70歳未満
- 70歳以上



※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。